



「私は貧乏ではない
質素なだけです」
…少欲知足…

“世界で最も貧しい大統領”と言われた前ウルグアイ大統領ムヒカ氏の来日が報道され、その生き方が注目されています。

彼が注目され出したのは、地球環境の未来を全世界で話し合う会議でのスピーチからでした。この会議には当然先進各国の代表も参加しており、それぞれが改善対策に努力しましょうという無難なスピーチをする中、最後に登場したのが当時ウルグアイ大統領だったムヒカ氏でした。主要国のスピーチが終わって多くが退席してしまった会場で、口調はゆっくりと静かでしたが、「環境問題は政治の問題だ」と厳しく指摘し、「富裕社会が持つ傲慢な消費を世界の70億から80億の人ができると思いますか？可能ですか？そんな資源がこの地球にあるのでしょうか、このような残酷な競争で成り立つ消費主義社会で、みんなで世界を良くしていこうと言った共存共栄の議論はできるのですか？」と問います。そして、次のような昔の人の言葉を紹介しました。それは、「貧乏な人とは、少ししかものを持っていない人ではなく無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」

と云う言葉でした。まさしく仏教の「少欲知足」の教えです。

給料のほとんどを寄付し、公邸ではなく自分の農場に住み、友人から貰った年代物のワーゲンを自ら運転し、時によその国の専用機に便乗させてもらうことにも躊躇なく、「私は貧乏ではない、質素なだけだ」と言って、権力の象徴だからと決してネクタイを締めないこだわりと、政治犯として13年の厳しい獄中生活の経験も、「英雄になるために刑務所に入ったわけではない。鈍くてただ捕まっただけ…」と語るところに彼の信念が見えるように思います。

「日本の何を見たいか」と聞かれたムヒカ氏の答えは、「日本人に幸せですかと聞きたい」でした。「幸福感」を持たなくなっている今の日本人にとって、ドキッとする質問です。何故なら、日本人は何が真の幸福であるかを見失っているからです。

「我々は幸福になるためにこの地球に生まれた」というムヒカ氏の「幸福」とはどのようなものでしょう。

* * *

宗教は「幸福学」だと言っていいでしょう。いったい幸福とは何か。どうすれば私たちは幸福になれるか。それを教えてくれるのが仏智です。世間一般では、(幸福) = (充足) ÷ (欲望) と考えるでしょう。しかし

これは揺るぎない公式にはなりません。我々の欲望はいつも無限に膨らみ続け、分母の欲望が限りなく増大するのですから、いくら欲望を充足させても「これが幸福だ」という答えはいつまでたっても得ることができず、この公式では幸福にはなれないのです。仏教が説く「幸福の公式」は、(幸福) = (知足) ÷ (少欲) です。欲望を少なくし、足るを知る「少欲知足」に心を変革する智慧です。分母の方を小さくし、得られたもので満足すれば、私たちは容易に幸福でいられます。真に幸福感を望むなら、この仏智に依るしかないのです。

来日したムヒカ氏の「あなたは幸せですか」の問いかけに、「私は幸福に見えますか？」としか返せなかったキャスターが今の日本人の価値観を表しています。自分自身の実感より、気にしているのは他の評価なのです。日本は昼夜問わず電気は煌々と輝き、物は溢れ、飢餓に苦しむ国一つを賄えるほどの食料が捨てられている国です。しかしその実態は、心は痩せ細り、ガツガツ飢えていて、落ちている食べ物でも食べようとするが、口にしようすれば突然燃え出して灰になってしまい飢え続けている…、豊かな人ほど餓鬼になってしまっているのではないのでしょうか。 合掌

奏庵法座

日時
4月26日(火)
午前11時～
「真宗宗歌」
正信偈
住職法話
ご文章拝読
「恩徳讃」
～*～
おとき

谷戸は桜から新緑に取って代わり、庵の階段脇に昨日までなかった筍が伸びてびっくりさせられます。仏教は、約2500年前のこの美しい季節のインドにお生まれになったお釈迦さまのお悟りによって生まれました。宗教は現世利益をいうものではありません。人生で逃れることのできない「苦悩」の解決を説くものです。

どうぞお参りいただき、今私たちに至り届けられている仏の智慧に耳を傾けて下さい。

お念仏相続と護持発展
を願って

皆さまの大切な方が結んで下さった尊い仏縁から、この寺報「かなであん」をお読みいただきご縁をいただいております。人々が流動する現代社会は、一族が代々同じ土地に続いていくことは難しく、そのような社会事情を鑑みて龍溪寺奏庵は、一期一会のご縁を大切に、ご門徒の必要とされることにお応えでき、何よりもご先祖から受け継がれたお念仏のみ教えを繋げていく場として、あえて檀信徒関係を結ばずこの地にあります。母体の龍溪寺は北海道教区に属し、浄土真宗本願寺派の寺院としての義務は本坊のご門徒からの維持費、住職の私費で果たしながら今に至っています。それらには毎年の本山、教区、組への進納金、また特別法要の際の法要費、記念事業などの経費の割り当てなどがあります。

この度はご本山から、昨年ご門主を継承されました第25代専如門主の「伝灯奉告法要」、さらには「親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年法要」をお迎えるための宗門振興推進金懇志のお願いがありました。その宗務総長からの願文には、「昨今の厳しい経済状況の中、ご住職ご門徒の皆様をはじめ全寺院に大きなご苦勞をおかけいたすことではありますが、新時代をきり拓らく総合計画の完遂に向け、心を一つにして…」とあります。皆さまにはあくまで任意ですが、おついでに折に、「一口5千円」を基準にご協力いただければありがたく存じます。合掌

龍溪寺へのお振込みは

【ゆうちょ銀行】

【記号】19060-2

【口座番号】3338701

リュウケイジ

領収書は寺報に同封します。

またまた起こった九州の大地震。地球は生き物であり、我々生命体は、鼓動し続ける地球を借りて少しの間お邪魔しているようなのだと実感する。■地球誕生の歴史からいうと、そこに生命体が生まれたのもついでこの間の事、その生命も、息づく地球に翻弄され、繁栄と衰退を繰り返してきた。地球にとってはほんの小さい歪みの断層ですら、そのエネルギーに人間は抗う力もなく、地球を恨む人もいない。津波被害に遭っても海を恨まないのと同じだ。文明への反省が生まれかえって腹がすわってくる。■特に日本人は、どこにいても災害から逃れることはできず、それがいつ、どこで、どんな程度に、どのような形で襲ってくるかも誰にもわからない。被災地の人には申し訳ないが、授業料は高いが、災害からしか学ぶことのできないこの授業は、地球生命にとっての必修科目だ。■熊本地震を起こした断層の一つと言われる日奈久に姉の嫁いだ寺がある。数年前、奏庵のご門徒たちと旅行で訪れたことがあるので覚えておられる方もいるだろう。今の所これといった被害もなく、境内地から湧く源泉のお湯にも変化はないようだ。豊かな自然に恵まれ新緑に包まれた被災地を見るのは悲しいが、その美しさにどこか救われる気もする。■山崩れなどももあるが、壊れたもののほとんどは文明がもたらしたものだ。ムヒカ氏の「…勇気を持って、歴史の奥深くに閉ざされた古来の知恵の社会を見てください。石器時代になれと言っているのではなく、寛大な精神を学んでほしいのです。幸せになるための根本的なこと、一番シンプルなところを理解し、実行するには他の人の命が必要です。個人は無です。個人は社会に依存しているのですが、その歩みこそが私たちの生活を永続的に豊かにしてくれるのです」の言葉が「うしろめたい」心に響く。自分には「すまない」と思うしかできない。 Norimaru